

伊勢国に幸せる時に、
当麻麻呂大夫の妻の
作る歌一首

五一一番

我が背子は いづく行くらむ
沖つ藻の 名張り
の山を 今日か越ゆらむ

草嬢の歌一首

五一二番

秋の田の 穂田の刈りばか
か寄りあはば そこ
もか人の 我を言なさむ

志貴皇子の御歌一首

五一三番

大原の この市柴の 何時しかと
我が思ふ妹に
今夜逢へるかも